

第4期第4回 帯広市産業振興会議 次第

日時：平成28年8月26日（金）18:00～

場所：ふじもり 2階

I. 開 会

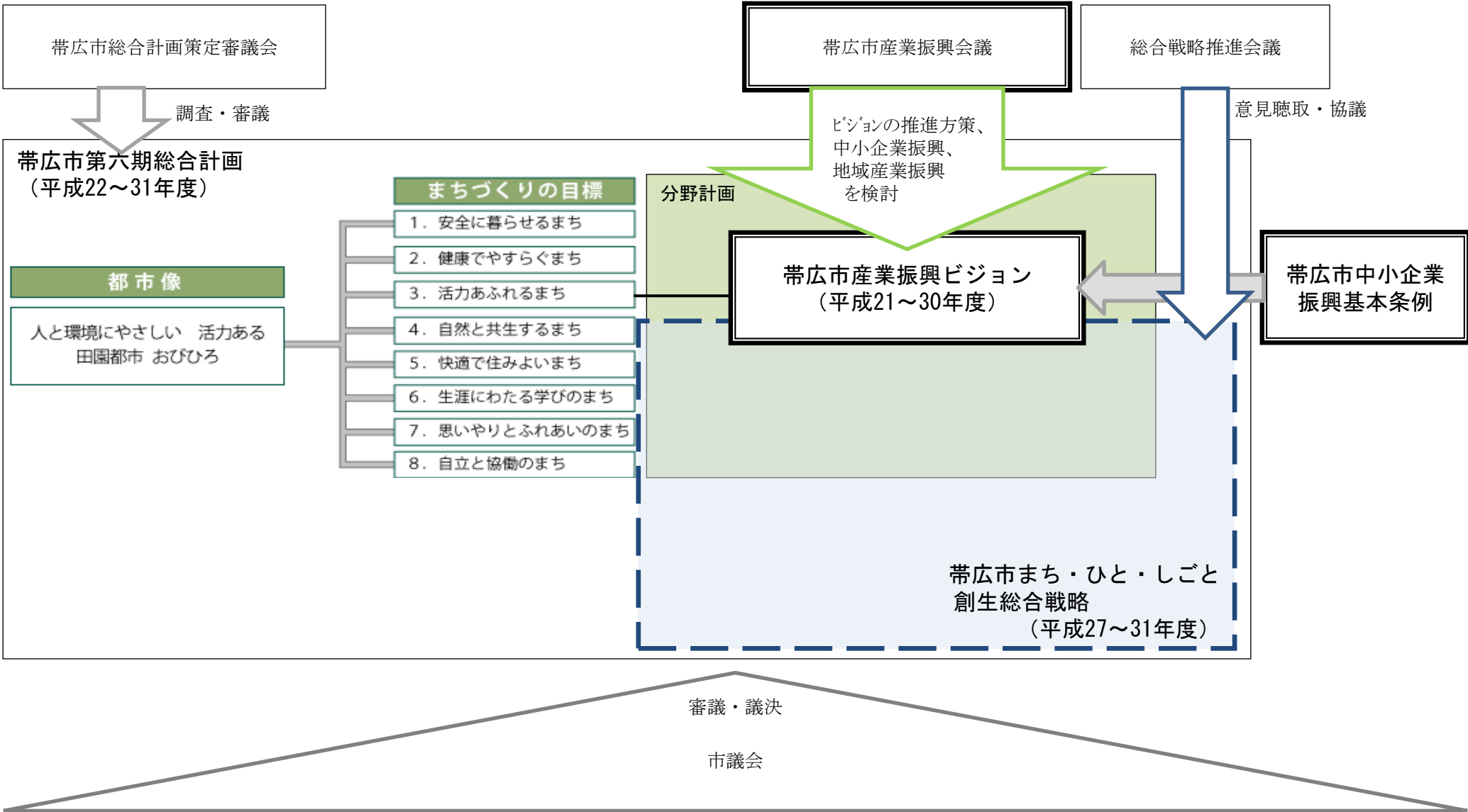
II. 協 議

1. 今後の議論の方向性と進め方について

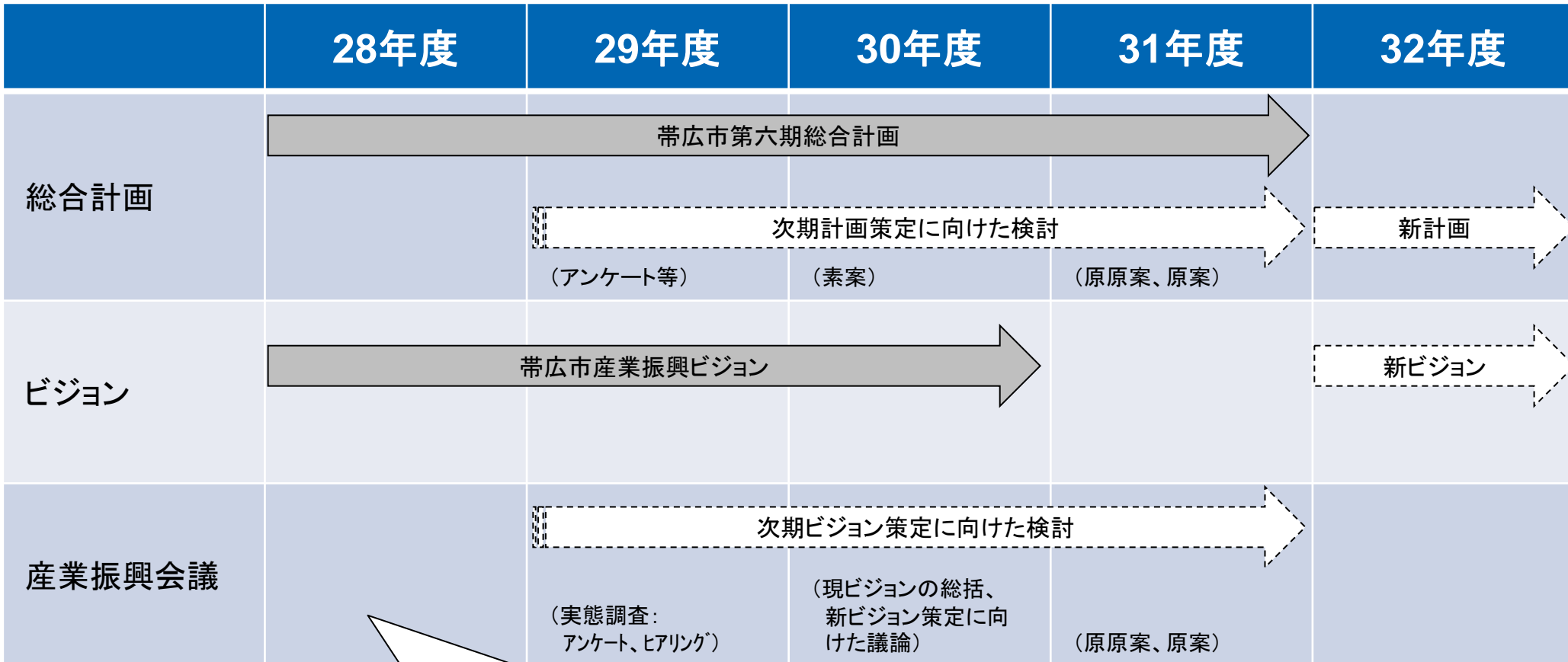
III. その他

IV. 閉 会

帯広市産業振興ビジョンと諸計画等との関係性のイメージ図



想定される今後のスケジュール



※前回策定時の経過を元に作成した想定スケジュールであり、現時点では未定です。

課題の抽出、認識の共有

委員ヒアリング結果（平成28年6～7月）

主な意見概要

議論のあり方に関すること

- 産業振興会議は具体的な議論の場。
- 業種ごとの議論が多い印象、業種はクローズアップしない方が良い。
- 産業連関、大きく十勝で考える必要。
- 各機関が気付いていない課題を。課題の抽出と対策。地域にとっての最大の課題は何かを議論する。象徴的な課題を抽出する。
- テーマを2、3絞って何が足りないかを議論する。切り捨てるわけではないが、テーマが広すぎる。
- 大義に向かって情勢に応じた見直しをしながら、イメージを共有することが大事。
- これまでの枠組みではなく、共通する切り口で考えてみる必要がある。
- 5つのテーマは変わらないが、話を広げて考え、また5つのテーマにフィードバックする。
- 議論を活発にするために大学生とのミーティング、各産業界、会議体等との交流、話題提供者の招聘があっても良い。
- 委員だけではなく、外部からの提案も取り入れてはどうか。

議論テーマに関すること

- 他業種のニーズ・弱点が分かると、やれる仕事がある可能性。お互いに困っていることを融通することの可能性。
- 地域に足りないもの、外注している産業等を把握してはどうか。
- 一次産業に各産業がどのように関わるか。産業界連携、地域間連携をどのように強くするか。
- 産業は、一つの産業だけ、帯広市だけでは完結しない。全十勝のネットワークを絡める必要。
- 創業・起業、事業承継を産業界連携でプッシュできないか。
- 十勝経済全体としての数値化ができないか。

具体的な課題・対策に関すること

人材育成・確保

- 技術を持った人材が育たない。高齢化も進んでいる。給与ややりがいの面から人材が会社から流出することもある。
- 管内の資格保有者のリストアップができれば、人材不足に対して役立つのではないか。
- 後継者育成、人材育成など勉強する場が足りないと感じる。マネジメントスキルも重要。
- 支援組織の専門家人材の確保、育成にも力を入れるべき。
- 人材は全てのテーマに共通する。創業者と承継者、雇用者それぞれ担うものが違う。農業でも新規就農者と後継者とでは意味合いが違う。

職業教育

- 企業が伝えるだけではなく、教育の現場での取組が必要。年代に合わせた教本、学校の先生の協力が必要。
- 進路を考えている高校生では遅く、中学生ぐらいから始めなくては。
- 教育が産業振興のテーマとして相応しいか再考する必要。

事業承継

- 他県でも起業したい人材と事業承継を望む企業のマッチングを行っている。十勝でも取り組むべき。
- 地域外の人に事業を継いでもらうことを考えてもよいのではないか。

観光

- 十勝にこだわってもらえる根拠が必要。十勝型民泊のネットワークや開業セミナーがあってもよい。

その他

- 市役所は市民目線で議論に参加してほしい。委員と同じ熱意を持って議論してほしい。
- 議論の内容を委員が各産業界にフィードバックできるようになると良い。



今後の議論の方向性と進め方（案）

《今後の議論の方向性》

- 十勝・帯広の中小企業振興、産業振興を進めていくために、何が課題なのか。
- 地域産業に足りないもの、困っていることは何か。
- 具体事例から見えてくる課題を全体に照らして検討する。

テーマ① 地域産業の課題を産業間連携、地域間連携を強化することによって、どのように解決するか。

テーマ② 分野や階層ごとに応じた人材の育成・確保をどのように取り組むか。
(経営者、承継者、被雇用者、若年者層等)

《今後の進め方》

- 本年度から上記テーマについて平行して議論を進める。
- まずは、各テーマにおいて、課題の「根っこ」を掘り下げる。
- 議論の進捗、必要性に応じて事業化・予算化を検討する。

